

第2回 FD/SD 研修「なるほど！アクティブ・ラーニング」

1. 概要

講師は一般社団法人キャリア形成支援協議会代表の酒元謙二氏。「学生をやる気にさせる CIS 行動学とは」をテーマに、いかに半年におよぶアクティブ・ラーニングで学生のモチベーションを保ち高い成果を上げているのかについてご講演を頂いた。

今回は質問や意見を大分大学からも出してほしいという先方の希望もあり、お互いの大学の取り組みに対して具体的解決策や情報共有を行う時間を設け、参加した教職員たちと意見交換を行った。

終了後、参加者へのアンケートを実施。研修内のどの分野に興味を持ち、自身の授業にどのように取り入れていきたいかをリサーチし、今後、FD/SD 研修が具体的にどのように役立つのかを検討する材料とする。(別紙データ参照)

2. 開催日時： 6月9日（13時10分～15時40分）

3. 場所： 大分大学教養教育棟 35号教室

4. 研修内容： 2部構成（1部講演・2部意見交換会）

13:10 講師紹介

13:13 酒元氏によるご講演

①CIS 行動学とは

②琉球大学をはじめ各大学で行っている具体的取り組み

③企業とのかかわり方

④学生のモチベーションを保つ方法

14:40 休憩

14:50 意見交換会

15:40 終了

5. 参加者数：合計40名

大分大学教員25名、職員15名 他大学教員1名

6. アンケート内容

(問1) 研修の ① AL、② キャリア教育、③ IS、④ CIS 行動学 に関する情報を、現在のご自分の業務（講義、IS、産学連携、それらの支援など）に応用したいですか。

A 今回の内容を一度ぜひ応用してみたい（数字に○を付けてください）

①AL ②キャリア教育 ③IS ④CIA行動学

B 現在の自分の取組と融合、相乗させてより改善してみたい

C 現在の自分の授業・職務の改善に応用することはなかった

(問2) 一番関心がある内容の数字に○を付けてください

①AL ②キャリア教育 ③IS ④CIA行動学

(自由記述)



なるほど！アクティブ・ラーニング ～学生をやる気にさせるCIS行動学とは～

半年におよぶ産学連携アクティブ・ラーニングを
必修科目とする琉球大学の取組
- その成果のツボ -
学生向け動機付けノウハウを一挙に公開！



【講師プロフィール】

酒元 謙二(さかもと けんじ)

昭和26年、鹿児島県生まれ。
一般社団法人キャリア形成支援協議会代表 沖縄
では人材育成を専門として20年活動。
「(株)ECC」「大阪たこやき村」など、11社の社長・
起業経験をもつ。
20代で60を超える国を放浪、その国内外活動を活
かし来沖後は琉球大学の協力を得て、独自のプログ
ラム「CIS行動学」を確立。
現在、沖縄県内各大学で大学別「キャリア教育」の研
究及びプログラム設計に主力、同時に各大学で年約
1100名12クラスの授業を担当する。

6/9
(木)

時間 13:10～15:40

場所 大分大学旦野原キャンパス
教養教育棟35号

講師とともに意見交換をする研修です。
中長期インターンシップ等をお考えの
皆様、是非お越しください。

7. 教職員の意識（アンケートから） ※回答数 23（回答率：57.5%）

（1）アンケート集計から

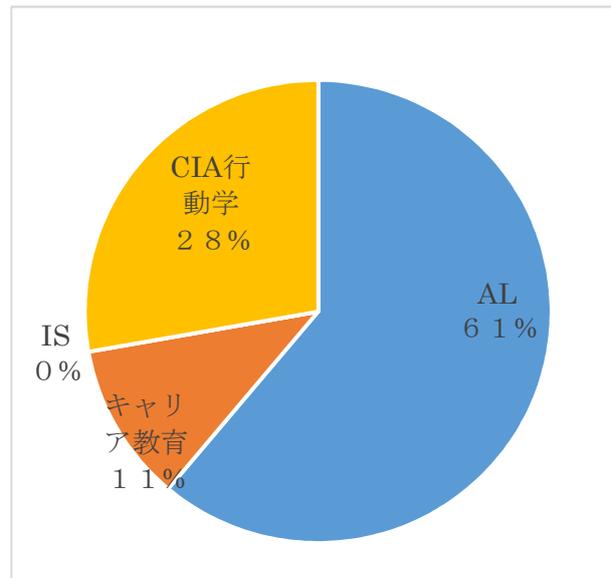
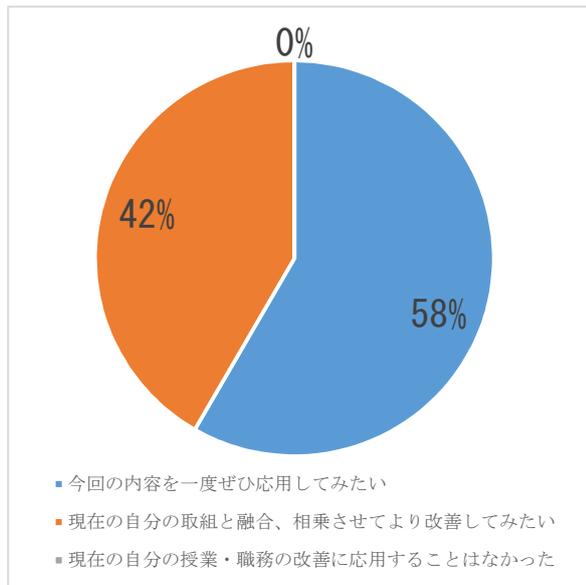
（問1）現在のご自分の業務（講義、IS、産学連携、それらの支援など）に応用したいですか。

- A 今回の内容を一度ぜひ応用してみたい
- B 現在の自分の取組と融合、相乗させてより改善してみたい
- C 現在の自分の授業・職務の改善に応用することはなかった

（問1-②）今回の内容を一度ぜひ応用してみたい内容は何ですか。

図1：問1

図2：問2



（問2）一番関心がある内容は何ですか。

図3：問2

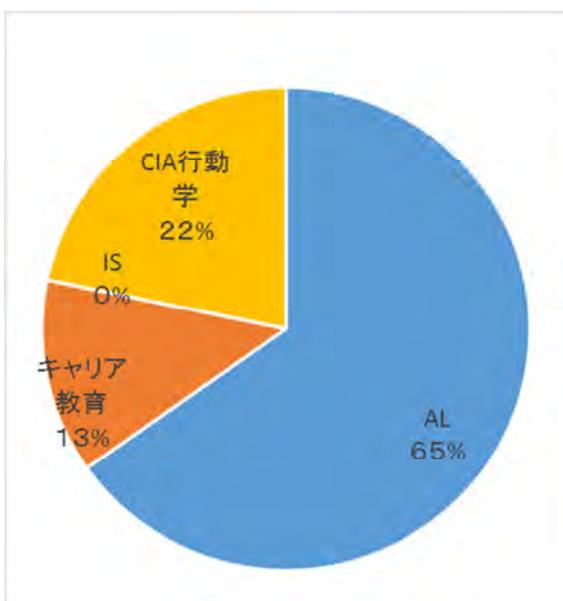


図1～図3を総合的に見ると、アクティブ・ラーニングに関する関心が高く、自分の授業にどう取り入れられるのかについて大いに参考になったことがわかる。また、図1からは、何らかの形で自分の授業に応用したいという意欲が高いこともわかった。

しかし、インターンシップに関しては、「応用」にしても「関心」にても0%であり、今回のFDでは効果がなかったのか、もともとインターンシップを取り入れる考えが無いのか分析する必要がある。

(2) 自由記述から

1) 成果に関すること

- グループ内での学びを進めるためのリーダー選挙などPBLを成功させるための秘訣を学べた。
- 最初のサイレンススタートやリーダー選挙など、大人数のクラスを動かす方法を学べた。
- 「CIS 行動学」の学生の「意識を変える」ことが、社会人として就職後の実践において、様々な問題解決を行っていくのに役立てることを学べた。
- 学生時代から企業の方々と交流することで、より具体的な事例とふれ合うことが出来ることも社会人基礎力向上につながることを学べた。
- ALの意義が再確認できたので、自分の授業にAL的な要素を取り入れる参考になった。
- 企業対応等がフィールドワークに適用できないが考えたい。
- 「学生はやるんだ」という先生の言葉から、基本的なことが学べた。

2) さらに知りたいこと・お願いしたいこと

- 工学系での例などをお聞きしたい。
- 成果物が知的財産になった例や共同研究につながった例があるかどうか知りたい。
- ミッション選定でフィルターはかかっていると思いますが、秘密保持契約につながる事例もどうするのか知りたい。
- パワーポイントのスライドの資料を配布して頂けるとさらに良かった。

(3) 考察

今回の目的である「地域での学生の学ばせ方、主体性の養成方法」に関しては、具体的な事例をおとした内容であり、大きな成果があったと考える。理論的に学んで入口まで来た「学修の手法」を、今後、具体的に自分の授業のどう取り入れるのかという次の学びが求められていると受け止めている。

また、回答率が57.5%と低いことから、単純に「参加者全体の傾向」と捉えることはできないと考えている。